

日管協

支部活動レポート

5月に支部設立
今後の活動に活力

留学生との交流を
情報交換の場に



京都府支部長
吉田光一氏

今年の目標として

本部が掲げる重点事項を支部として後押しするだけでなく、政府や大学、国際交流団体と積極的に交流したいという思いを結びんでいます。

今年は京都市で日本学生支援機構や国際交流協会との主催でフェアを開きました。

このフェアは外国人留学生を対象としたもので、日本人学生や地域の住民、家主、学校が留学生とどのような関係築いているかをテーマに外国人留学生が日本ですさまざまな人々とのようなふれあいを持っているのかなどを考えるというイベントです。今年で2

回目を知恵のこのイベントには多くの人々が興味を抱いてくれます。このような形で今後も住宅への興味をさまたまな人に持ってもらうたいと考えています。

昨年夏の会員数の45社から今年は少しづつ会員を増やして53社までになりました。今年の目標は60社まで達することです。

いわゆる営業活動はしませんが、イベントなど活動を通して少しずつでも私たちの存在をアピールしたいと思っています。

他団体と共同でイベントを企画

オーナーを集めたセミナーも人気を集めています。昨年は「耐震対策」や「現状回復」をテーマに行いました。今年も同様にテーマを考え



滋賀県支部長
藤原克己氏

滋賀県支部は昨年の5月にスタートしました。また、現在の加盟は13社とともと京都府支部の会員を中心に構成されている段階なので、今後の活動に力を入れていきたいと考えています。

そのためにはまず、現在の会員で力を合わせていくことが要求されます。どのような活動をしていくにも、常に全員参加で力を合わせた取り組みをしていきたいと考えています。

他にも情報の共有化が必要だと思っています。会員だけでなく、他の支部との交流も図り、さまざまな形をとって新たなビジネスのチャンスも模索していきたいと考えています。

昨年9月に開催したオーナーセミナーは「敷金問題」と「安全対策」をテーマに行いました。このような活動も大切です。滋賀県には全国的に有名な産地があります。京都や大阪の水がめとなっていることから、県は環境問題にとっても力を入れています。



▲京都で行われたフェアの様子